ピープル 輝く人

日米交流の知られざる功労者
ラナルド・マクドナルド研究
ジム・モックフォードさん

番組レポーター坂本 三佳さんと共に
写真提供＝ジム・モックフォード

幕末期、北海道の利尻島に上陸した一人の米国人――ラナルド・マクドナルド。ペリー提督の黒船来航にさかのぼること5年前、1848年の出来事だった。スコットランド系とネイティブ・アメリカンの間に生まれたマクドナルドは現在のオレゴン州アストリア出身。彼の足跡を残そうと、同じくオレゴン出身の歴史家ジム・モックフォードさんは「マクドナルド友の会（FOM）」の会長として顕彰活動に力を注いでいる。

モックフォードさんは日本語を学んだオレゴンの大学で、マクドナルドのことを知ったという。「彼の生まれたところは私の実家からほど遠くない。さらに興味を持ちました」。その後、日本に留学。早稲田大学でマクドナルドの伝記を日本語訳している教授のもとで、さらに彼に対する知識を深めていった。

マクドナルドは利尻島にはたどり着いたものの、幕府の鎖国対策のため密入国の疑いで雅内、松前、長崎へと送られたが、送還までの半年間、14人の日本人に英語を指導。その中には後にペリー提督との交渉で通訳を務めた森山栄之助も含まれていた。帰国後、ワシントン州で亡くなるが、終始日本に対して好印象を持っていた。これには彼が幼少の頃、オリンピック半島に漂着した音吉、岩吉、久吉の3人の漁師に対する好奇心も影響していたといわれている。

しかし、1970年代までマクドナルドの功績は故郷でも知られていなかった。当時、アストリア図書館長だったブルース・ハーニーさんが偶然資料を発見。自身も英語教師として日本に滞在経験のあるハーニーさんは74年、マクドナルド生誕150周年記念事業を成功させた。88年には「マクドナルド友の会」が発足。現在はモックフォードさんが会長を務める。

現在の会員数はおよそ60人。モックフォードさんはあらゆる機会でラナルド・マクドナルドの生涯について語っている。今年4月のシアトル桜祭・日本文化祭でも講演を担当した。「今現在は博物館に展示する資料を集めています」と説明する。

モックフォードさんは先日、TBSテレビのテレビ番組「世界ふしぎ発見」の12月2日放送「日米交流はここから始まった！幕末サムライ英会話学校」でマクドナルドにかかわる取材を受けた。「草の根の運動ですが、時に今回のように予想を超える反応があります。こうして、日本でもマクドナルドのことがテレビに取り上げられ、多くの人が彼について知る機会を得ることはとても素晴らしいことだと思うのです」。

（稲葉 八重子）

マクドナルド関連のの書籍は近年目立つようになった

草の根の運動から・・・

HokubeiHochi